

‘02 春山合宿報告書

飛騨山脈 北ノ俣岳～黒部五郎岳～双六岳

02.4.27～4.29

CL. 板倉, 亀山, 町田, 金子
竹内, 村越, 鈴木



黒部五郎岳

デンソー山岳部

【春山合宿を振り返り】

(計画) 冬の黒部五郎岳の偵察も考慮して、今回の合宿を設定したが、コースの設定から若手の考えを入れ、スムーズに計画は進んだのではと考える。

愛知岳連からも冬山の偵察を考えた春山の重要性の説明が遭難対策会議であった

(行動) 全体としては、好天に恵まれたアルプスの眺望を楽しみ、春山を満喫できた。先回同ルートからの入山に比較すると格段に積雪量が多く、寺地山までのルートファインディングに苦労した。若手は雪山では道のないルートでの読図力が要求されるので今後の山行で2万5千図による地形の確認が確実にできるようにして欲しい。行動スピードは、各自の事前努力によるものが、順調に進むことができ計画以上行動ができ、大変うれしく思う。今後も自分自身の楽しい山行のために、努力を続けていただきたい。

ポイントであった大ノマ乗越からの下降は、雪も締まり問題なかったが、デブリの多さから安易に入るべきではないと感じた。

(冬山偵察) 冬山合宿の偵察を踏まえ、入山から順に以下の点をポイントとして上げる

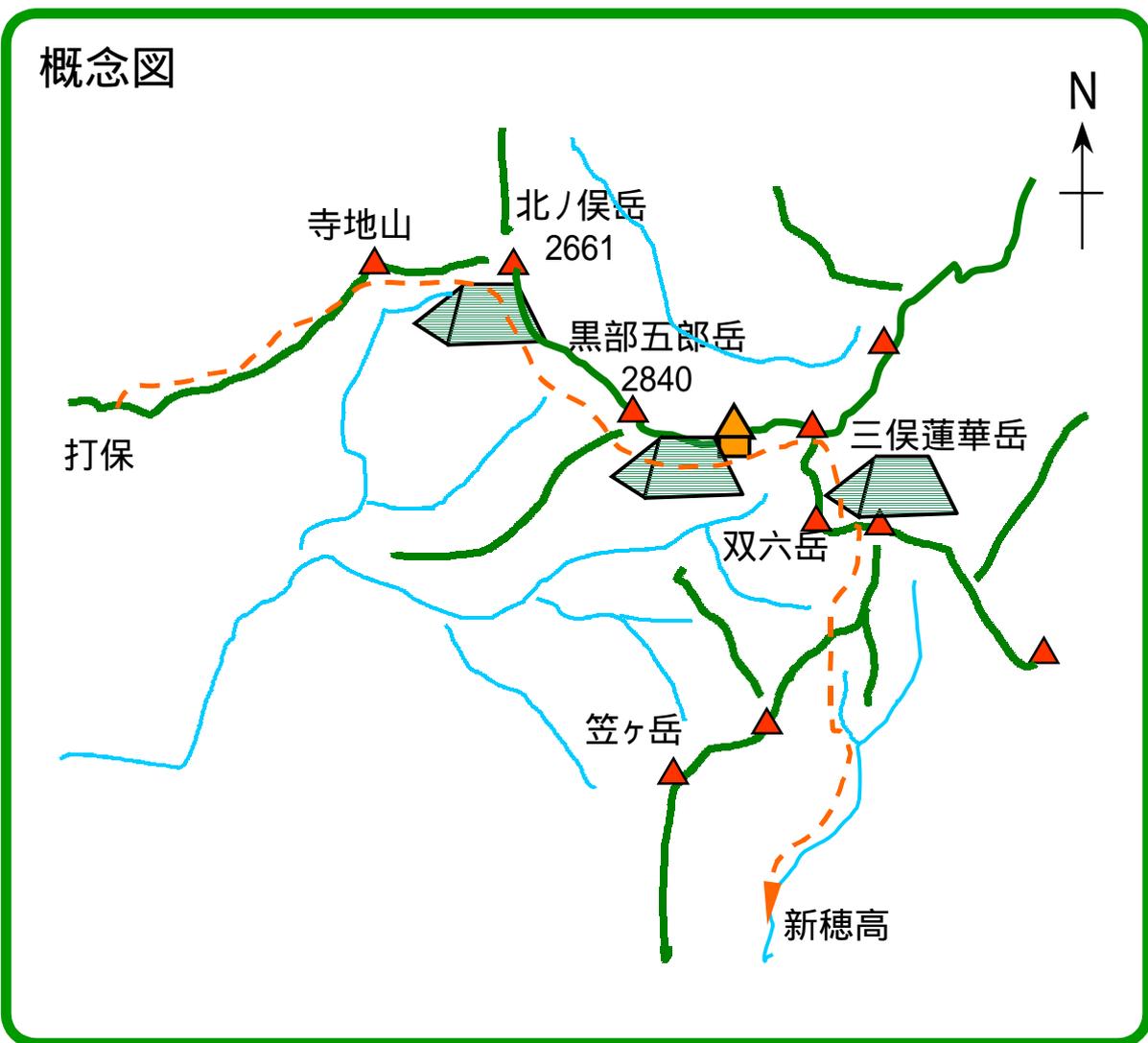
入山に関しては、どこまで入れるのかを計画にしっかり反映する必要あり

林道終点からの登路をどこに取るか(沢沿いの夏道、尾根)を秋の偵察でしっかりと確認する

予想どおりの積雪量の多さへの、対応は必要である(ラッセル力、メンバーetc.)

- (食糧) 食糧担当のメンバーシップが発揮され、チームの雰囲気盛り上げてくれた。今後は、若手にそのノウハウを伝えていただきたい。
- (装備) 今回、大人数ということでホエブスを2基持っていったが、修理したばかりのものから、またガソリンが漏れ出した。点検でも問題なかったが、入山口で発覚した。今後の部の装備として再検討する必要がある

最後に、留守部員の方々をはじめ、差し入れをいただいた方々、そして今回入下山ともに車の提供、運転とご協力いただきました菅田さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。
(CL.板倉・記)



【行動記録】

【4月27日(土)】 晴時々曇

- ・ 24:00 菅田さん宅着
- ・ 4:50 起床
- ・ 5:40 菅田さん宅発
- ・ 7:00 打保発
- ・ 8:00 林道終点着
- ・ 10:00 尾根(1600m)着
- ・ 11:50 寺地山取付き着(1750m)
- ・ 13:05 寺地山着
- ・ 14:20 尾根着(2100m)
- ・ 15:15 テント場着(2400m)

前日の20時半頃車2台で刈谷を出発し、東海北陸道で神岡を目指す。途中小牧で渋滞につかまるが、24時頃菅田さんの自宅に到着。ビールをご馳走になり今晚泊めさせて頂く。

4時50分起床、朝食を頂き打保に向けて出発する。約1時間で打保に到着、林道手前で車を菅田さんに引取ってもらい、私達は林道を歩き始める。1時間程で林道の終点に到着し1本取る。登山道の登り始めより雪があり、尾根を新しい白テープを頼りに登って行く。途中寺地山への取付きに迷い引き返すが、地図でルートを確認し取付きまで下り1本取る。この辺りは冬の積雪、悪天

候で迷いそうなので地形をよく覚えておく必要があるようだ。

取付きより樹林帯を登り、寺地山に到着し1本。このあたりで疲労を感じるようになってきた。寺地山より最初は平坦であったが、広い雪の斜面に出ると傾斜がだんだんきつくなってきた。足取りが重く、トップと間隔が広がるようになってきた。

本日のテント場までの最後の1ピッチでバテバテとなり、亀さんにテントを持ってもらうことになってしまった。情けない。なんとかテント場までたどり着き、ホッとする。テントを設営し夕食の準備をする。メニューは村越さん特製のカレーでとてもおいしかった。

明日は3時起床、行程は長いので皆の飲み水を作り、早々に寝袋に入り明日に備えた。

(記・鈴木)

【4/28(日)】 晴れ

【コースタイム】

- ・ 5:00 テン場出発
- ・ 5:30 稜線
- ・ 5:40 北ノ俣岳山頂
- ・ 8:10 黒部五郎岳山頂
- ・ 9:15 黒部五郎小屋
- ・ 11:25 三俣蓮華岳山頂
- ・ 12:40 双六岳山頂
- ・ 13:40 双六小屋着

今日は、合宿のメインコースを歩く。

コースタイム(地図)で約10時間の長丁場である。

3時起床、5時出発。アイゼンを着け30分程歩くと稜線に出る。稜線からは、薬師岳、水晶岳、槍ヶ岳、黒部五郎岳等の山々、遠くに御岳が見える。

記念写真を撮り、早々に、黒部五郎岳を目指し南下する。視界も良く、周りの景色を楽しみながら、広く緩やかな尾根を快調に行く。

黒部五郎岳直下(コル)約300mの急登を根性で終えると山頂に着く。

山頂からの大パノラマをそれぞれ楽しむ。下りは、県界尾根を慎重に黒部五郎小屋まで行く。

小屋は雪の下で屋根だけが顔を出していた。振り返ると黒部五郎のカールが雄大で実に素晴らしい景色である。小屋から三俣蓮華岳に向かう途中、山スキーの登山者と出会う。

我々の目の前を華麗に滑っていった。スキーが上手ければ最高のコースである。

小屋から約2時間で三俣蓮華岳山頂に着く。全員良くここまで歩いたものだ。褒めてあげたい。

今日のテン場の双六小屋まではもうひと頑張り、双六岳山頂コースをとる。

今日の最後の登りを終えると双六岳山頂に着く。

山頂からは携帯電話で部長、家族等にそれぞれ登頂の報告をする。双六小屋13時40分着。

約8時間半の長く、充実した山行が終わった。

双六小屋はテントが5張程度で、静かなキャンプを満喫することが出来た。(記 金子)

【4/29(月)】 快晴

【コースタイム】

5:30 双六小屋発
6:50 大ノマ乗越
7:30 蒲田川左俣
9:20 新穂高

快晴の中、山を惜しみつつの下山である。振り返ると小屋越しに鷲羽岳が大きく聳えている。先回は同ルート視界の悪い中での下山であったが、朝日を浴びた槍穂高を眺め、大ノマ乗越をめざす。大ノマ乗越は弓折岳から見下ろすと迫力があり、笠ヶ岳への稜線と重なり更に迫力を増す

斜面は大規模なデブリも見え、天候が悪いと雪崩の巣だなと感じる。傾斜自体は、デブリのデコボコのせいかさほどきつく感じなかった。しかし、距離は長く疲れた足にはきつい。蒲田川左俣で一本を取り、山を振り返ると合宿が終わったと感じた。

新穂高への林道は、川まで落ち込むデブリを超えつつ進む。新穂高近くまで雪の上を歩くことができ気持ちよく歩くことができた。最後は、菅田さんの出迎えのサービスで全員安堵の顔で合宿を終えることができた。

(記・板倉)



大ノマ乗越

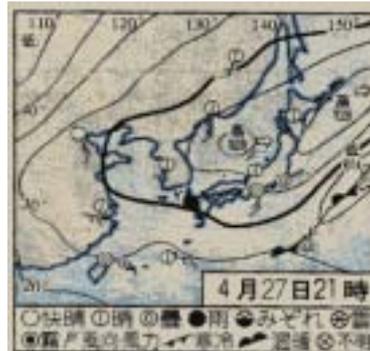


蒲田川左俣から大ノマ乗越

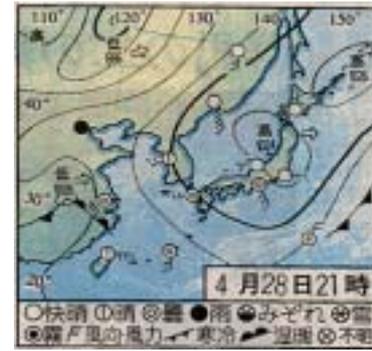
【気象】



4/27 入山日 北ノ俣岳
天候 晴れ時々曇り
ふもとの天候はよいが、寺地山から上はガスで視界悪し



4/28 北ノ俣岳 双六小屋
天候 晴れ
少し雲はあるものの、視界は良好で、山々が一望できる
午後、穂高の山は少し雲に覆われる



4/29 双六小屋 新穂高下山
天候 快晴
高気圧に覆われた快晴の一日
帰路、南に向かうにつれ雲が増える

今回初日でバテてしまった原因は、冬山よりは楽であろうという楽観的な考えがあったからだと思う。

初日は打保からの標高差が1500m程あり、きつい行程であるという自覚と準備がおよびペース配分が必要であった。これくらいでバテることの無い様、今後しっかりとしたトレーニングを積んで行きたい。

(鈴木)

久しぶりの合宿参加で、個人的にはハリハビリ程度の山行をイメージしていたのですが、蓋を開けると精鋭部隊と同一行動で一抹の不安はありましたが、すばらしいリーダー、仲間、そして天候に恵まれ無事合宿を終えることが出来ました。

皆さん、ありがとうございました。久しぶりに残雪の北アルプスの山々を眺め、歩き、充実した春山を堪能することが出来ました。

(記 金子)

山の良さ と 体力

・長い一日のアプローチの後に北ノ俣の稜線に出た時、パーッと眼前に広がる黒部源流の山々の素晴らしさ！

我々だけが堪能できるこの贅沢感、これから続く黒部五郎、双六へのエネルギーを差し引いても、まだ余りある山のプレゼントである。

・かつては、どこまでも続く雪原や雪渓の降りも大股で重力のままに駆け下りた。

しかし、今回気が付いた。体が（膝が）スピードを吸収できない。となりを、板倉がすすい降りて行く。はっきりと、体力維持向上が課題として認識できた。

今回の山行は天候に恵まれてこの、“山のプレゼント”で体力を補いながらの充実した、楽しい合宿だった。

メンバーとアプローチをサポートしてくれた菅田さんに感謝する。

町田 修

とにかく、天気の良かった中で山行ができたのは何よりである。景色を楽しみながら歩けたことで山に来てよかったとしみじみと思った。

それから、村越くんが作ったカレーの味がとてもおいしくて今もあの味を思い出してしまう。7名と最近の山行では人数も多く楽しい山行となった。(竹内)